

佐賀温泉を活動の拠点に

中山間地域の課題解決に活用



議員 水野 佐知

運営を引き継ぎ、休業による避難所の喪失と中山間地域の課題解決に対応する為、温泉を中心とした賑わいのある交流施設となるよう、活用していく。

いいもの探しについては、旧佐賀町時代に取り組んだ事業の一環。このワークショップに賛同した人たちが、なぶら委員会として現在も国道沿いの花の植栽など、地域活性化に協力している。

問 少子高齢化が進んでいるが、佐賀、大方地域の17年前と現在の人口推移について問う。

答 渡辺企画調整室長
2022年度末の町人口は1万355人で、旧大方町と旧佐賀町が合併した直後の2005年度末からは3778人減った。地域別の減少率は大方25・1%、佐賀は30・7%と、佐賀の方が高い。

問 以前に佐賀地域で事業として取り組んだいいもの探しについて、各地区でワークショップ、冊子作りなどを行っていたが、その後、どうなったかという声が住民にある。以前のように佐賀温泉を拠点として、元気に暮らしていきたいという住民の声についてどう考えるか。

答 渡辺企画調整室長
佐賀温泉は民間から寄付を受けた。今後、町が



休業中の佐賀温泉（上）と、集落活動センターにての正月用餅づくりの「コマ」（下）

（令和5年12月下旬、拳ノ川）

職場環境

職員の労働環境の改善を
労働時間と健康管理に配慮

答 土居総務課長
令和5年度当初における正規職員は187人で、会計年度任用職員は216人。会計年度任用職員の勤務形態はフルタイム24人、パートタイムのうち、定型の勤務形態が107人、日々任用が85人。また、令和4年度の正規職員の1カ月当たりの時間外労働時間の平均は、10時間30分。最長時間外労働時間は、1カ月当たり112時間。

問 町の職員も、公務員である前に一人の町民であり、住民サービスの向上や地方自治の発展のためにも労働環境の改善が不可欠だと思うが、対応は。

問 正規職員と会計年度任用職員の内訳、また、1カ月あたり平均時間外労働時間と最長時間外労働時間について問う。

答 土居総務課長
労働時間の最長時間の管理や産業医の面接などを通じて、健康管理について配慮を行っている。